

会 議 録（1月）

平成30年1月19日
教育委員会会議室

1. 出席委員 教育長 猪野 貴一 教育長職務代理者 石井 勇
 委員 寺本 俊文 委員 興梠 浩幸
 委員 松本 貴子
2. 事務局 教育次長 武内 秀元 指導主事 渡木 秀明
3. 書 記 教育次長 武内 秀元
4. 報 告
 (1) 鞍岡中学校跡地利用を考える会代表者と町長との意見交換について
 ※ 非公開とする。
 (2) 佐伯勝元教育基金を活用した奨学金等の制度化について
5. 協 議
 (1) 小学校統廃合に影響する移住対策について
 (2) 男女混合名簿について
 (3) 五ヶ瀬町いじめ防止基本方針の改定について
6. その他
 (1) 第8回市町村対抗駅伝大会の結果について
 (2) 第49回町民駅伝競走大会及び第32回小学生ロードレース大会について
 (3) 教職員の働き方改革及び外国語教育に係る授業時数増加への対応について
 (4) 五ヶ瀬教育ビジョン第4フェーズについて
 (5) 五ヶ瀬町地域おこし協力隊募集要項について

連絡事項

- (1) 教育委員会行事予定（1・2月）について

会 議 録 午後5時03分開会

教育長 あいさつ

議事録署名委員：石井 勇 委員

Q…Question（質問）、A…Answer（回答）

O…Opinion（意見）

E…Explanation（説明）

【4 報告】

1 鞍岡中学校跡地利用を考える会代表者と町長との意見交換について

※ 非公開とする。

2 佐伯勝元教育基金を活用した奨学金等の制度化について

① 教育次長が資料に基づき説明する。

- ・昨年、11月に佐伯勝元氏から1億円の寄付をいただいた。平成26年度に1千万円いただいていたので、その残額と合わせ、1億200万円程度となっている。
- ・そのうち、奨学金に7割、その他の事業に3割を配分することとした。
- ・奨学金等は3種類とする。①医学部、薬学部、農学部に進学する場合の貸与型奨学金とし、医学部、薬学部は本町に帰ってきて5年いたら返還免除、農学部は15年いたら返還免除とする。②五ヶ瀬中等教育学校前期課程への支援で、寮費の半額程度の3万円を3年間給付する。③高千穂高等学校及び矢部高等学校への入学支度金は、入学費用の半額程度の5万円を給付する。

(質疑)

E1 約7千万円を奨学金等に充てる。奨学金は、貸与型なので15年で返済する。給付については、10年間程度の見通しで制度化する。その他の3割は、芸術文化体験、教育現場支援に使う。

E2 薬学部は数名進学しているが、医学部に進学する生徒は少ないので、制度化してもどうなのかという意見もある。農学部も対象者が少ないので、もう少し対象の幅を広げるべきなのか、検討が必要である。

Q1 学部を絞ったのはどういう理由か。

A1 基金設立時に4つの大きな柱の中で、本町の課題である医療、農業分野に進学した場合に支援する旨が謳ってあったことによるものである。

Q2 学びの森の町外出身者にも支援するのか。

A2 親が五ヶ瀬町に住所を置き、生活実態がある者を条件と考えている。

E3 貧困対策も考える必要があるのではという意見もある。

E4 奨学金は、進学困難者への支援が殆どであるが、町長の思いとして医学部というのが町の課題であるということもある。

E5 医師になって五ヶ瀬に帰って来られるのかという問題もある。

○ 1 医者になれば、研究等で更に知識を深める必要があり、直ぐに五ヶ瀬に帰るようなことは出来ない。帰ってきて、返済期間の15年は過ぎてしまうのではないか。

○ 2 農学部とかは、県の事業で優遇されている。就農すれば3年間、毎年150万円ずつ支給されるとか、就農しなくても農業関係の会社等に就けば、支援があるのではないか。

Q 3 県の奨学金は、教育委員会を通じて申請しているのか。

A 3 今は、そのような事務を行っていない。県の奨学金の受付は、高校で行っている。

○ 3 低所得者の家庭から、高校に進学する場合に入学支度金の相談がある場合がある。一度に払う必要があるのも、それが大変だということで相談があるので、このような入学支度金の補助があると良い。

E 6 最初は、入学支度金として10万円を考えていたが、半額程度の支援とした。

Q 4 入学支度金は、進学者全員が対象なのか。

A 4 所得に関わらず、全員を対象と考えている。

○ 4 山都町は、矢部高校に進学する場合にこのような制度がある。

【5 協議】

1 小学校統廃合に影響する移住対策について

① 教育長が説明する。

- ・奨学金も移住対策に入っている。2年に一度の海外派遣も同様である。
- ・移住対策をうちだけでやっても仕方がないことで、受け入れる空き家がない。
- ・12月の庁議で、教職員の子どもの人数、児童数に対する割合の話題を出したら、管理職が驚いていた。県教委や教職員に頼っては駄目だという話しをした。このまま行くと、三ヶ所小学校でさえ複式学級となる可能性がある。何とか阻止したいが、かなり難しい。

(質疑)

Q 1 小学校統廃合に影響する移住対策についてというのは、ということなのか。

A 1 これを教育委員会だけではなくて、やって行かないといけないということで、これは協議ということろにしているが、うちで協議する内容ではない。

今からやらなければならないという情報提供として協議題とした。

- E 1 まちづくりもそうであるが、魅力ある学校教育、社会教育を展開して行かないといけない。教育は、子どもがいると気にするところである。こういうことについても、次からそういう話しをして行かないといけないし、総合教育会議でも、本当はここが一番議論すべきことになって来ると思う。
- Q 2 小学校統廃合に影響する移住対策についてというのは、学校を統廃合した場合のことを言っているのか。
- A 2 小学校を統廃合しなくて良いようにということである。このままだと児童数は減る一方なので、統廃合しなければならなくなる。増えることは無いにしても、出来るだけ維持して行けるようにしなければならない。教職員だけに頼ることないように、移住対策を進める必要がある。
- E 3 学校が一つ減ると、教職員は夫婦で来ているケースが多いので、そこが読めなくなる。そうなると加速度的に進んで行くのではないか。
- O 1 色んな人と話すと、真剣に町民が人口が減ることに対して、やったことがあるか。例えば、鞍岡中学校の統合問題でも、あの頃真剣にやったか、人を確保するために考えてやったかというような意見が出て来始めた。全町的なこれから進めて行く中で、教育でどう対策を取るか、それぞれの分野で対策を取って行く必要がある。そういった話しを全町的にしていかないと、いつまで経っても同じではないか。地域を守るためには、Uターンが一番、町内のことが分かっているので良いと思うが、これまで真剣にやってきたかと思う。
- E 4 今、やらないと、今やっても手遅れかも知れないが、その話しを庁議でもした。気になり始めたのか、少し意見が出た。本来ならば町全体で考えるべきこと。就労先、空き家、そして地域づくり、その中に教育があるというだけである。
- O 2 折角、良い教育をしながら、五ヶ瀬の観光資源等が凄いという教育をして送り出しても、現実的に帰って来る子ども達がいるのか。それは、自分達の世代が確保して行かなければならない。みんな考えてはいると思うが、もう少し行動を起こすような形になって行った方が良い。例えば、ギリギリになって統廃合とか話しをするのではなくて、早くから話していけないといけない。

- E 5 私が譲りたくなかったのは、佐伯勝元さんの基金でも、7対3の割合を本当は5対5にして、半分くらいは今居る子ども達のために創ってアピールする材料にしたい。五ヶ瀬に来れば、こんな良いことがあるというのを出したい。
- O 3 茨城大学の教授から依頼があって、アンケート調査を実施した。5歳刻みでの人口を出したが、20年後にはものすごく人口が減ってくる。多分、町内全域そうであると思うから、町民に示してあげると良いのではないか。波帰地区で20年後何件残るかを聞いたら、4件程度と言われたが、道の上はもっと少ない可能性があるが、危機感を感じていない。そういったものを示してあげて、みんなで考えて、みんなで活動していかないと、一つのところでやって行くのは大変である。
- E 6 県全体のグラフがあるが、12月の教職員の研修会で示した。教職員も力を付けていかないと淘汰されるということを言った。指導力を付けないと生き残れなくなるといようなことを言ったが、そのような具体的な数字をうちで示していない。出生数は6年後までしか分からないが、企画の説明では年間出生数は20名程度だと言われた。そういったことを示していかないといけない。
- O 4 自分が五ヶ瀬に帰って来て40年くらいになるが、この間を人口の推移を見してみると、地域づくりが盛んなところに若者が帰って来ている。一時期、内の口がものすごく元気な時期があって、次に鞍岡の波帰中心にスキー場関係で帰ってきて、桑野内に帰ってきて、2区にも帰ってきた。今は坂本に帰ってきているが、地域づくりが盛んなところに帰ってくる傾向がある。地方創生の取り組みでも地域づくりをやって行って、もしかしたら五ヶ瀬が良い状況になって来れば、帰って来る人も増えるのではないかと思う。そこで、将来の見通しとか厳しさと、危機感と、実績を示してあげれば良い。駅伝がそうであったように、勝つところは地域づくりが盛んである。駅伝は分かりやすい。そう考えると何か繋がりがあるのではないか。そのことを示して行って、教育委員会が庁議で話してもらったのは非常に良かったと思うが、折角だから役場内で広めて、町全体に広めて行くシステム、取り組みを期待したい。
- E 7 企画がやろうとする会議を考えている。来年になって始めたら遅いので、少しでも早くしたいと思っている。役場内の検討会が必要で、グループ長あたりが真剣に考えて行かないと繋がらない。

○5 日之影町が消滅自治体のナンバー1で挙がっていたが、この前の朝日新聞では、消滅自治体という言葉が消滅させた自治体として日之影町がナンバー1になったとして載っていた。何か取り組みをやれば、危機感を持つ人が増えてきて、効果が出る。

E8 地域おこし協力隊を何人も募集しているし、トップページに地域おこしに来ませんかというホームページを作っている。それがまず最初に目に付く。今も人口は現状を維持している。県内で言えば、西米良、綾。綾は伸びている。川南は、住宅の提供があるから伸びている。そのような施策を打つように考えて発言していかないといけない。

2 男女混合名簿について

① 渡木指導主事が説明する。

- ・現在、町内5つの小・中学校では、全て男子が先、女子が後という名簿になっている。ところが、姓で分けないLGBT、性的マイノリティ問題等もあり、今年の秋に宮崎県教育委員会が姓で分けない名簿、男女混合名簿の活用を推進を行うとしている。
- ・男女共同参画社会の調査結果によると、学校教育の場というのは、男女で分けないというのは、例えば政治の場、社会全体、職場、家庭生活を含めて、そういうものと比較すると学校は、男女平等に配慮しながら活動を行っている場ではあるが、全国のデータが出ていて、学校教育の場が一番高いが、学校教育の場は67%で、宮崎県は54.9%で10%以上低い状態にある。人権同和教育室が県にあるが、全国の男女混合名簿と比較した時に、宮崎県の使用状況はかなり低い。
- ・県内の小学校236校のうち、男女混合名簿を使っているのは、25校、10.6%、中学校は131校あるが、わずか6校、4.6%という数字になっている。
- ・こういったこともあり、この秋に県教育委員会が男女混合名簿を推進して行きたいという説明があっている。
- ・五ヶ瀬町は、100%男女別名簿なので、やるのであれば今の社会情勢や未来を生きて行くのが子ども達なので、今の子ども達が将来、大人になった時にどういう感覚を持って未来の社会で生きて行くかということを考えると、本町でも男女混合名簿を推進する必要があると考えている。

(質疑)

Q1 推進するのは良いが、困ったことはないのか。

A1 前例があるので、その情報を入れることは出来る。例えば、入学式、卒業式で男女の順に並ぶと見た目が慣れないのかも知れないが、実際、導入するに当たってどんな困ったことがあったのかというような情報を集めて行きたい。

E 1 日向市に勤務していた時は、男女混合名簿であった。困ったのは、保健簿の処理、これには慣れていた。卒業式の時の歌、もう一度並び直すのかというようなことがあった。2種類の名簿があって、結局は1種類には留まらない。卒業式では男子何名、女子何名、計何名というように言うので、そういうところは困ったので、そういうのは今後名簿ではないものを使って良いという話しをしていた。

O 1 健診の受付名簿とか、出来なくはないと思うが作り難いというのがあるのではないか。

E 2 大人の健診の場合は、誰でも、女子がいて男子がいたりする訳で、X線の部分だけ分けることになると思うが、学校の場合はなかなか男女を交わらせられないところがある。

Q 2 その場合の並び順は、50音順なのか。

A 2 小学校は生年月日順で、中学校は50音順となると思うが検討して決める。

Q 3 これは全国的な取り組みなのか。

A 3 そうである。ある政党を中心にこういう動きがあっている。

(決定事項)

推進する方向で、校長会にこちらの意見を下して検討してもらう。

3 五ヶ瀬町いじめ防止基本方針の改定について

① 資料に基づき、渡木指導主事が説明する。

- ・改定理由は、平成29年3月14日に国のいじめ防止のための基本的な方針が最終決定され、これを受け、宮崎県いじめ防止基本方針も平成29年7月13日に改定された。
- ・本町のいじめ防止基本方針は、3年を目途に国の動向等を勘案して見直すことになっており、今回、国、県の動向を勘案し、見直しを行う。
- ・改定のポイントは以下のとおりである。

- ① いじめの定義の明確化
- ② 道徳教育の実質化と質的転換
- ③ 学校評価や教員評価の留意点
- ④ 学校いじめ防止プログラムの策定
- ⑤ いじめ問題に対する学校の組織的対応
- ⑥ いじめ解消の要件

- ⑦ SC・SSWの積極的活用
- ⑧ 幼児期の教育の取組
- ⑨ 校長のリーダーシップによる対応

- ・ボリュームがあるので、次回の定例教育委員会までに見ていただいて、次回、協議したい。
- ・朱書きが今回の改定になるが、1点だけ、2ページの上段の朱書き部分で「けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合あるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断するものとする。」が現行では、「けんかは除く」と書いてあった。事例を見た時に、どこまでがけんかなのか、どこからがいじめなのか、最初は五分五分でけんかしていても、ある瞬間から一方が強くなる、その辺の線引きを考えて全てのトラブルに関して、しっかりとした対応をやって行くということになった。

(質疑)

- E1 こういうのを作って対応するのも大事であるが、今のうちの学校組織のように仲の良い学校を作って行くということをやると、いじめは少なくなる。明るい学校づくりを今後もやっけて行かないといけない。それが攻めの対策である。

【6 その他】

1 第8回市町村対抗駅伝大会の結果について

- ② 資料に基づき、教育次長が説明する。
 - ・1月8日に開催された駅伝大会の結果表で、本町は町村の部でAチームが6位、Bチームが15位であった。目標、3位、10位であり、目標には達しなかったが、アンカーの手前までトップを争っていた。
 - ・今回も、「五ヶ瀬を愛する会」の方、応援バスで駆け付けてくださった方が沢山いらっしやった。

(質疑)

なし

2 第49回町民駅伝競走大会及び第32回小学生ロードレース大会について

- ① 資料に基づき、教育次長が説明する。
 - ・2月18日に開催する。本日までが申込締切となっているが、現在7チームの申し込みがある。例年、申込期日を過ぎるので、例年通りのチーム数は集まると考えている。

(質疑) なし

3 教職員の働き方改革及び外国語教育に係る授業時数増加への対応について

① 資料に基づき、渡木指導主事が説明する。

- ・先日、新聞に掲載された県内の教諭の過労死ライン、小学校で55%、中学校で74%を超えているという結果が出ており、これは昨年9月に行った調査を見ても、本町の教員で勤務時間ピッタリに来て、ピッタリに帰るといような方はいない。
- ・その一方で、小学校3、4年生から外国語の授業が始まる。時数が増えれば働く時間も増えるという、全く相反する悩みを同時に抱えるような状況というのがある。
- ・それを何とか知恵と工夫で解決出来ないかというのが、モジュール型教育課程の導入である。モジュールというのは、8時5分から20分、8時20分から35分というふうに15分ずつで、小学校の授業を1コマが45分間で、この45分を15分×3とすれば45分になるという考え方である。1週間に15分が6回あるということは、3つで1時間分の授業が出来るので、6回あるということは、2時間分の時数を増やせるのではないかという考え方である。しかし、授業の内容によっては45分しっかりやらないといけないのがあるが、単元テストとか30分でやって、次の日の15分で答え合わせということも出来る。
- ・先生方の知恵と工夫で教育課程のカリキュラムマネジメントと言っているが、知恵と工夫で必要な授業時間を生み出して、更にその時数を生み出せば、余裕の時数が生まれる。
- ・小学校では3・4年生が1時間、5・6年生が1時間増えるが、更にこれ以上に増やすことが出来れば、休みを取り易い日をつくることのできる。授業時数がしっかりと確保できれば、長期休業を短くすることが出来るとか、次年度は4月のスタートを1日遅らせる。これは、異動して来る先生方に配慮してのことである。12月の冬休みに係る分を1日前倒しする。年休は、12月で締まるので、未消化分が取り易くなる。
- ・他の市町村では授業時数を増やしているが、本町は、先生方と協力して、生みの苦しみをやっていただいているが、逆転の発想で減らすこととした。根底にあるのは、学校の成績が維持出来るから、こういう攻めの取り組みが出来る。

(質疑)

- E1 やりがいと充実感というのがありますが、おそらく先生方はやりがいと充実感を持ってやってもらっている。そのためには、自分達でマネジメントして、子ども達の成果を出せば良い、成果が出なければ止める。という方向で、次年度の教育課程を作っている。

4 五ヶ瀬教育ビジョン第4フェーズについて

① 資料に基づき、渡木指導主事が説明する。

- ・今年度まで五ヶ瀬教育ビジョンのキーワードを「選択と集中」で進めてきた。非常にやることが沢山あって、本当に必要なものは何かというところに注目しながら五ヶ瀬教育ビジョンを見直して行こうという形であった。
- ・次期、取り組みを始めようということで、そのキーワードを「つながり」としてはどうかと考えている。このつながりとは、「ひと・もの・こと」で、この町をフィールドに、**人とのつながり**をしっかりと行いながら教育を行って行こうということ、**学びのつながり**は、より家庭と学校がつながることでより良い学習定着を図る、**将来へのつながり**は、子ども一人ひとりの夢、子ども達の夢、将来の五ヶ瀬町の夢、先を見据えた教育を展開するということで「つながり」とした。複雑であったり、四角四面でもなく、シンプルに柔軟性を持ってつなぐということを進めて行きたい。

(質疑)

- E 1 地域を大事にしているというのを分かっていただけと思うが、地域が無ければ学校は無いので、もう一度つながりを考えて行く必要がある。ある程度、うちの教育は進んでいる訳なので、今回は「つながり」に視点を置いた。
- O 1 年末に先生方と話す機会があって、そこで先生方聞いた話しでは、遅くまで学校に残って仕事をしており、空調設備が無いので、窓に網戸を付けて欲しいという意見があった。
- E 2 中学校の校長室は、設置した。今、予算要求の段階で、職員室に空調設備が入る可能性がある。
- O 2 夏場は教室に蜂が入って来たりというのが何度かあったので、教室全ては無理かも知れないが、出来る限り設置して欲しいということであった。
- E 3 段階的にでもやって行こうということで、予算要求をしている状況である。

5 五ヶ瀬町地域おこし協力隊募集要項について

- ① 資料に基づき、教育次長が説明する。
 - ・地域おこし協力隊の募集については、今月の行政事務連絡会で企画課から1名観光協会の職員を募集している。企画課では、3名程度の募集枠を考えている。
 - ・そのうち、1名を教育委員会で募集したいと考えている。業務内容は、図書館の管理運営に関してであるが、募集要項をホームページ上にアップしても、応募があるとは思えないので、熊本市、宮崎市及び延岡市辺りに出向こうと思っている。
 - ・図書館建設については、過去に基本設計まで行った経緯があるが、実現に至っていない。施設建設が厳しい状況であれば、運営を強化することを考えている。

- 1 多分、町内出身でやりたいという人がいるのではないかと思う。大学生で、図書関係の仕事に就きたいということで、そういう大学に進んだ人がいる。
- E 1 住所が過疎地域以外でなければならない。大学生は、住所を移さずに本町に置いたままというケースがあるので、そういう人は対象にならない。
- E 2 出来れば、移動図書カーを造って、町内を回るようなことも考えている。
- E 3 課題は、この制度を活用し終えた時に、自立出来るのかということである。
- 2 地域おこし協力隊の目的には、3年過ぎてから起業出来るかというのがある。中には異動する人もいるが、基本的には地域で起業するので、3年後に企業するためには、どういふふうに行って行くかというのがある。
- また、募集の仕方を積極的にやる方法を考えなければいけない。過去に大学リーグをやったが、あれは地域おこしのためのゼミをやっていた。その学生達が大学を出て、研究員になる人もいるが、そういう人たちをターゲットに先生達に聞いてはどうかと思う。例えば長崎県立大学、東海大学、宮崎大学は大学リーグで、過去に五ヶ瀬で色んな調査をしてくれた。ホームページだけでは集まらないのであれば、大学に直接掛け合えば、先生達もこの学生ならという人しか紹介しないと思う。そういう観点で話してみてもどうか。
- E 4 直接、大学等に行って話しをしてみたい。3年経ってどうなるかと言うと、例えば、鞍中跡地を図書館として、そこを活動拠点にして、そこを拠点に自立してやって行けるように仕向けて行ければと考えている。
- E 5 塾を開くとかいう事も出来るし、ネットワークを作って貰って自分の仕事が出来たものを模索してもらうのも頼まないといけない。定住してもらえると有難い。総務省からの交付金なので、一人ではなくて、ネットワーク作りが欲しい。他の地域おこし協力隊と一緒に活動するようなチャンスを作ってあげたい。
- 3 地域おこし協力隊は、NPOを創って自分達で事業を造っていくというパターンもあるので、図書館とかを組み合わせに行くという可能性はある。
- E 6 鞍中跡地を拠点にするのであれば、カフェを開いても良いのではないかと。イベントに出向くというような事も出来る。
- 4 五ヶ瀬で講演された小林さんの直売所は、2階が本屋になっている。それを図書館とかに出来ればもっと面白いという話しをした。これは一つの案だ

が、色々な情報を持って来て考えても良いのではないか。

Q 1 県外住所の方であれば、元町民でも構わないのか。

A 1 現住所が過疎地でなければ、元町民でも構わない。

E 7 企画課が起案を回すようになっているが、教育委員会としては出来るだけ早く動いて行きたい。

O 5 地元に対する思いは、町民の方が強いと思う。Uターンしてくれれば、町民が良いと思う。

E 8 この要項に書いてあるように、月額報酬が低い。ただ、公務員ではないので、副業も出来るので、何か他にやりながら出来るというのはある。

連絡事項

1 委員会の1・2月行事予定

※ 一覧表により次長が説明する。

次回の定例教育委員会日程

2月15日（木）午後5時30分 教育委員会において開催する。

閉会時刻 午後6時17分

教 育 長

会議録署名委員

会議録調整者